

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(11/12)

|  | 評価区分(※) | 総合評価<br>(IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算) | I   | II  | III                   | 総合評価に係る専門家所見(主なもの)  |
|--|---------|--------------------------------|---|---|-----------------------|---|
|  |         |                                | 目標に向けた取組の進捗   | 支援措置の活用と地域独自の取組の状況  | 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決 |   |
| 国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区(大阪府等) | 正       | 3.2                            | 3.5<br><br>進捗度<br>・国際医療交流の推進<br>106%<br><br>・訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進<br>90% | 3.2<br><br>規制の特例等<br>・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業<br><br>地域独自の取組<br>・国際医療交流の拠点づくり促進補助金<br><br>・宿泊施設設置奨励金<br>等 | 3.0                   | <p>・金融支援によって高度がん医療拠点施設「メディカルりんくうポート」が昨年完成し、医療通訳や外国人医師交流など国際交流拠点のサポート体制が整いつつあることは一定程度評価できるが、目標達成には程遠い。構想の抜本的な見直しが必要だと思われる。</p> <p>・メディカルりんくうポートと大阪府がん診療拠点病院であるりんくう総合医療センターとの関係が不明である。また、りんくう総合医療センターは、外国人患者受入医療機関として国際診療科を設置しているとのことであり、事業の重複が懸念される。「メディカルりんくうポート」の整備の目的、りんくう総合医療センターとの役割分担などを明らかにすることが必要と思われる。</p> <p>・海外へのPR戦略において、ターゲットとする国や地域を明確にする必要があるのではないか。満足度の調査において、本事業関連の利用満足度について把握し、補足的なデータとして活用できたのではないか。</p> <p>・評価書にある通り、目標設定した段階からの環境変化で、目標の水準としてすでに適当でないと考えられるものが複数ある。数値目標水準の設定手法の妥当性の再検討が必要ではないか。</p> |

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。